



愛媛大学生祭であったチアリーディング部のパフォーマンス。観客はそれぞれ間隔を空けて並んだ
13日午前、松山市文京町

学生の祭典 2年ぶり復活

県内大学

混雑回避 飲食なし コロナ対策模索

昨年、新型コロナウイルスの影響で中止が相次いだ県内の「学生の祭典」が、条件付きではあるが復活してきた。13日、2年ぶりの開催となった愛媛大と松山東雲女子大・短期大では学生た

ちが音楽やダンスのステージなどで目、その取り組みの成果を披露。キャンパスが文化の秋に包まれた。松山市文京町の城北キャンパスであった愛媛大学生祭は、入場者を限定し、手



学生たちがクイズ大会などを楽しんだ東雲祭＝13日午後、松山市桑原3丁目

「東雲祭」を昨年中止した松山東雲女子大・短期大も今年是对面形式で開いた。同市桑原3丁目の構内チャペルで部活動紹介や有志によるダンス、クイズ大会などで交流を深めた。愛媛大と同様に飲食提供をせず、客席の間隔を空けるなどした。ゲストライブ

はオンラインで実施した。ウィズコロナの祭典の形を模索しながら開催にこぎ着けた両大学。愛媛大学生祭実行委員会の西山太郎委員長(21)「理学部3年」は「後輩たちに新しいつながりができるようにしたい。数年後に振り返ったとき、明るい思い出になってほしい。」東雲祭の実行委員長

で松山東雲女子大人文科学部3年の北野水葵さん(21)は「大学祭は学生生活の大切な一コマで、来て良かったと思ってもらいたい。準備を通して信頼できる仲間にも出会えた」と話した。県内では20、21日に松山市文京町の松山大で学内関係者に限定して大学祭を開く。(大津貴圭)

指消毒や混雑回避のために通路を一方通行にするといった感染対策を講じて14日まで開く。約50団体が参加した今年のテーマは「Connect」。音楽サークルの演奏が響く構内では、古着や文具を景品にしたゲームや手作りの陶器販売、写真や書道の展覧会もあった。屋外ステージで、はつらつとしたチアリーディング部を見せた垣愛実部長(20)「教育学部3年」は、新型コロナウイルス禍で発表の場が激減したと振り返り「この日のために練習してきた。見てもらえてうれしい」と晴れ舞台を満喫した様子だった。

はオンラインで実施した。ウィズコロナの祭典の形を模索しながら開催にこぎ着けた両大学。愛媛大学生祭実行委員会の西山太郎委員長(21)「理学部3年」は「後輩たちに新しいつながりができるようにしたい。数年後に振り返ったとき、明るい思い出になってほしい。」東雲祭の実行委員長

で松山東雲女子大人文科学部3年の北野水葵さん(21)は「大学祭は学生生活の大切な一コマで、来て良かったと思ってもらいたい。準備を通して信頼できる仲間にも出会えた」と話した。県内では20、21日に松山市文京町の松山大で学内関係者に限定して大学祭を開く。(大津貴圭)